

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年3月4日

【評価実施概要】

事業所番号	1570400869		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	三条ケアセンターそよ風		
所在地	新潟県三条市島田2丁目4番3号 (電話) 0256-36-5411		
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	20年	1月18日

【情報提供票より】(19 年 11 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤15人、非常勤0人、常勤換算15人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階	建ての	2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり		1,266 円

(4) 利用者の概要 (19 年 11 月現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名
要介護3	9 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 70 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	むとう医院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「三条ケアセンターそよ風」は、住宅街の一角、もとは工場倉庫のあった跡地に建てられた。建物の1階は定員25名のデイサービスセンターと居宅支援事業所となっており、グループホームはその2階にあり、「ひまわり」「五葉松」の2ユニットからなる。開設して3年以上が経過しており、地域との関わりが重視され、近所の高齢者や小学生たちが定期的に訪れている。各ユニットは、共有スペースがこじんまりしており、落ち着きがあり過ごしやすい造りである。母体の会社は県内に数箇所グループホームを運営しており、研修も計画的に実施され、グループホーム間の連携が取れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果をもとに、業務の見直し・改善を行なっている。介護計画作成にあたっては、入居時に細かな方向性を話し合い、家族にもカンファレンスに参加してもらえるように呼びかけている。センター方式のアセスメントを導入し、一人ひとりの暮らしぶりをより把握しようという取り組みを始めている。感染症マニュアルは事業所独自のものを整備した。苦情対応では、寄せられた細かな意見についても記録を残し、丁寧に対応している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 職員全員が自己評価表を使って、年に2回自己評価している。その評価結果をまとめて、会議で業務の見直しを行っている。外部評価の結果も同様に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議では、利用者のホームでの生活ぶりを報告したり、意見交換を積極的に行っており、どうしたら地域との関係を深めていけるかを共に考え協力し合える関係ができています。合同の避難訓練や地域行事への参加などが企画されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 家族の利用者に対する思いをくみ取るよう努め、利用者の暮らしぶりや健康状態を書いた担当職員直筆の手紙をホーム便り等と一緒に家族に送るなど、細部まで利用者の様子を伝えるような関わりをしている。意見や要望をさせるように意見箱も設置している。また、家族が面会時に気になることを職員に話してくれる関係が出来ており、小さなことでも苦情受付書に記入し、迅速な対応を行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎月ホームが企画する行事(お茶会、歌う会、作品展等)にお誘いしたり、地域の行事に参加したりと、徐々に顔見知りの関係ができています。近隣の小学校との交流も盛んであり、ホームの向かいにある児童館の児童達が気軽に遊びに来たりもしている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に生きる」という会社の基本理念を掲げて、利用者・職員・地域とのつながりを大切にして取り組んでいる。その基本理念を具体的に実践するためにユニットごとの理念も作られている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や各フロアの見えやすいところに掲示されており、管理者は日々の業務の中で活かされるように職員に働きかけている。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	地域には回覧板を使ってホームの取り組みを伝えている。家族にもホーム便りや手紙を送付して常に理解を得る努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月ホームが企画する行事にお誘いしたり、地域の行事に参加したりする中で、徐々に顔見知りの関係ができています。また近隣の小学校との交流も盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価表を使って、年に2回自己評価をしている。その評価結果をまとめて、会議で業務の見直しを行っている。外部評価の結果も同様に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者のホームでの生活ぶりを報告したり意見交換を積極的に行っており、どうしたら地域との関係を深めていけるかを共に考えている。合同の避難訓練や地域行事への参加などが企画されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催により、市内の3つのグループホームが集まって情報交換をする場があり、ともにサービスの質向上に取り組んでいる。		つい最近まで定期的に情報交換会が行われていたが、市の担当者が忙しいとのことで、実施されないことも始めている。ホームが主体になって開催したり、また、考え方や現場の実情をよく知ってもらえるよう更なる働きかけを行っていくことも期待したい。
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内に拘束防止委員会があり、虐待や身体拘束についてホーム内での見過ごしがないように取り組んでいる。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用料の請求や金銭管理、ホーム便りと一緒に、担当職員からの直筆の手紙を送付し、現在の利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見要望を表せるように意見箱を設置している。家族が面会時に気になることを話してくれる関係ができており、小さなことでも苦情受付書に記入し、迅速に対応をしている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム管理者、センター長、県内事業所を統括する支所長は共に話しやすい雰囲気を持って職員と関わっており、日々のミーティング、毎月の職員会議で職員の意見を運営に結び付けている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内に複数の事業所があり、異動はやむを得ないが、1回に異動する人数は最小限にするなど、利用者へのダメージを軽減するよう努めている。異動、離職の際は利用者・家族に対する説明を行い、その後利用者が混乱しないよう、担当職員がスムーズに引継ぎを行なうなど配慮している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しも適宜行われている	基本的なケアのやり方、事故防止、感染症、救急法等のマニュアルが整備されている。新人研修では確実にマニュアルの指導をしている。マニュアルの見直しも随時行う体制がある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体の会社で段階別、職種別の研修会が行われている他、定期的の新潟支社内のグループホーム間で行われる事例検討会や、外部研修への積極的な参加など、職員が研修参加の機会を持てるように配慮している。外部研修の内容は、会議の中で他の職員に周知している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内のグループホーム間で行事のお誘いはしているが、積極的な交流やネットワーク作りには至っていない。		今後は、職員の交換研修等、お互いのサービスの質の向上に向けた取り組みを期待したい。
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士が気軽に話し合える関係ができており、ホーム管理者や県内事業所を統括する支所長も、職員から相談事があれば迅速に応じている。県内の系列事業所間での懇親会も定期的実施されている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前の見学や訪問など、利用者・職員が顔見知りになれるように共に過ごす時間を持ち、馴染みやすい雰囲気作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いを大切にし、その場面場面での不安や心配ごとなどを感じ取れるように常に親しく接している。利用者から学ぶ場面ももち、ともに支えあう関係を築いている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者に対する家族の思いを考慮しながら、細部まで利用者の様子を伝えられるよう報告をしている。面会時は、家族からいろいろなご意見が出るような和やかな会話を心がけている。家族の宿泊も可能である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での会話から、利用者ひとりの思いや希望を把握するように努めている。また、家族からの情報を得るようにも努めている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や、入居後に本人や家族から話を聞く機会を持ち、暮らしぶりを把握するように努めている。またセンター方式アセスメントの活用も始めている。		センター方式のアセスメントを記入していく中で、より利用者一人ひとりの思いや生活歴、馴染みの暮らし方等の把握していくことを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に本人と家族を含めたカンファレンスを行ない、今後の方向性を確認している。その後の介護計画作成・見直しのカンファレンスにもできるだけ参加してもらえよう家族に働きかけをしながら、介護計画についての意向を確認している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングを行い、介護計画の見直しを行なっている。また本人の状態に変化があった場合は随時担当者会議を開催し変化に応じた介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診や金銭管理、買物や外出、理美容等、本人や家族等の状況に応じて、個々の要望にできるだけ応えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との関係を大切にしており、受診はほとんど職員が付き添いを行っている。また協力医療機関が柔軟に往診してくれており、連携が取れている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、今後の生活の希望や、重度化した場合や病気になった時などの意向を個別に話し合い、できる限りホームで暮らせるような方策を考えている。また、身体的な重度化・変化に伴い段階的に話し合う場を家族等と持っている。かかりつけ医、家族等、職員の中で方針を共有し対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はやさしい言葉かけ、和やかな笑顔で利用者と接している。職員の言葉かけの内容もプライバシーに配慮されたものである。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望を聞きながら、それに添った支援を心がけているが、業務の都合上、職員がすぐに対応できない状況もある。		今後、より利用者一人ひとりの暮らし方や思い等を把握し、業務上の工夫をしながら、一人ひとりの要望に沿った支援を期待したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は厨房で提供しているが、その他はユニット内で作っている。野菜を切ったり味付けをしたり、配膳・下膳等をしてもらうなど、利用者個々の力に合わせて食事作りに参加してもらっている。職員も一緒に食事を摂り、会話をして楽しい雰囲気作りをしながら、食べこぼしや食事の手が止まっている方にも自然にさりげなくサポートを行っていた。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを把握し、排泄が不規則な方には規則正しくなるように働きかけている。また、ほとんどの利用者に、トイレで排泄できるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全利用者に、毎日入浴するかどうか声をかけ確認し、時間や順番についても希望を聞くようにしている。また日曜日にはデイサービスの大浴場を使って、温泉気分を味わってもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事以外でも行事やレクリエーションで役割や楽しみを提供し、日常的に張り合いのある生活を心がけている。		さらに利用者個々の生活歴を把握し、能力を引き出すような支援をしたいという意欲が職員にある。今後さらなる支援を期待したい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月外出や外出に出かけているほか、利用者の希望時の外出や買い物にも出かけて気分転換を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待と合わせて身体拘束についてもホーム内研修の機会をもち、普段の自分たちのケアで見過していることがないように振り返り、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、デイサービスセンターが休みである日曜日は1階に誰もいなくなるため防犯上施錠しているが、外へ出たいという希望があった場合はいつでも玄関の鍵を開けて対応している。その他の日は朝から夕方まで玄関の鍵は開けており、1階への行き来も自由である。職員は、利用者の自由な生活を大切に支援している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時には原因・対策をその日のうちに話し合い、また、毎月の職員会議でその後の経過について話し合っている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	年に1回は全員が消防署主催の講習会を受けるようにしているほか、日常的にもデイサービスの看護師と連携をとって、急な事故等に備えている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	地域の避難訓練に参加しており、ホームの訓練にも自治会、民生委員に参加してもらっている。平成16年7月の水害の際は、利用者を安全に避難させることができた。現在詳細なマニュアルを整備中である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設のデイサービスセンターに栄養士があり、摂取量、栄養のバランス、水分量の把握がおこなわれている。粥食やミキサー食、トロミをつけるなど状態に応じた支援が行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム全体の内装が、木の温もりを感じられるようなものになっており、明るさも適度である。共用空間はこじんまりとしていて、利用者が作った作品が所々に置かれている。テーブルとソファがバランスよく置かれ、過ごしやすい雰囲気がある。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には家具、寝具、テーブル、写真等使い慣れた物が持ち込んでもらい、本人が落ち着いて過ごせる居室作りを心がけている。</p>		